

1. 第2回自転車活用推進委員会の概要

①第2回自転車活用推進委員会について

- 【日程】 令和2年12月14日(月)
午前10時～午前11時30分
- 【会場】 大田区民ホール(アプリコ)
地下展示室
- 【報告】 ①新たな計画策定スケジュール(案)について
②第1回委員会(資料送付)までの振り返り
③新型コロナウイルスの影響による自転車利用の変化
- 【議事】 ①計画の具体化に向けたアクションプラン(仮)の内容
②先行施策の進捗状況の報告

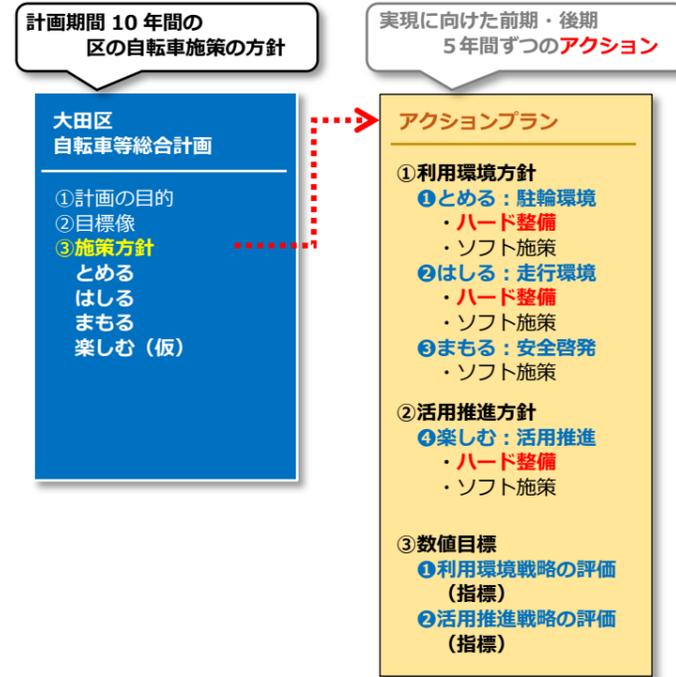


②スケジュールについて

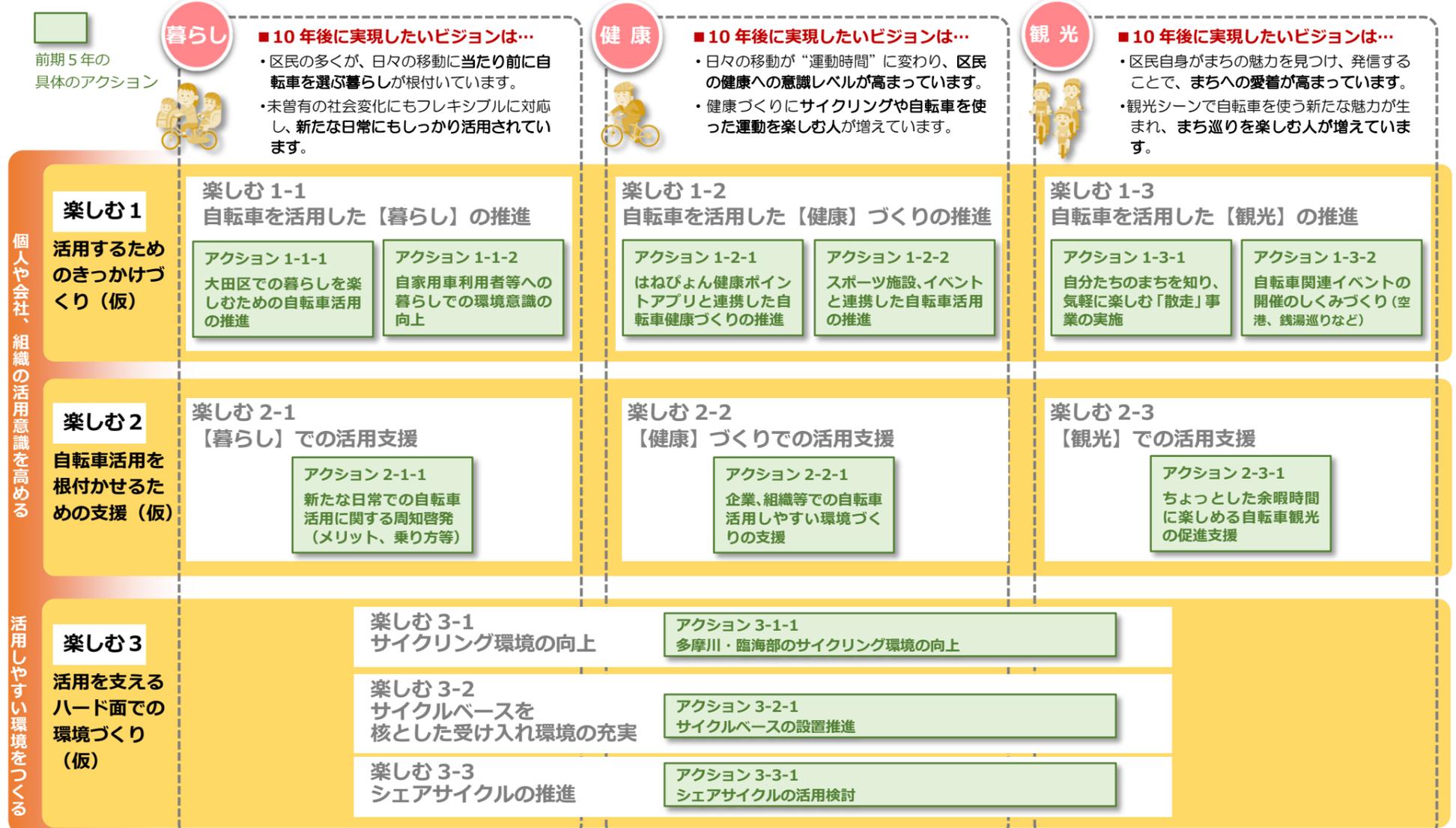
委員会	令和元年度			令和2年度												令和3年度			令和4年度								
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
活用推進委員会	課題の共有、活用方針、先行施策、個別施策など			活用推進施策の検討及び主要プロジェクトの選出												主要プロジェクト実現に向けた役割分担、スケジュール			活用推進施策の推進体制			パブコメ意見を踏まえた計画案の検討			自転車等総合計画策定(令和4年4月)		
活用推進委員会	区民参加手法の検討			区民連携体制の検討												推進体制の構築に向けた調整・協議											
活用推進委員会	全4回(6,8,10,11月開催)			第1回(資料送付)												第2回(通常開催)			第1回(6月予定)			第2回(11月予定)					
駐車対策協議会	総合計画骨子の検討(目標、方針、施策等)			※緊急事態宣言を受けて会議を中止												総合計画の具体策・主要プロジェクト検討(全体10年)			施策スケジュール・役割分担の検討			※パブコメ予定10~11月			自転車等総合計画策定(令和4年4月)		
駐車対策協議会	全2回(11,2月開催)			※緊急事態宣言を受けて会議を中止												アクションプランの検討(前期5年)			総合計画(案)の検討			パブコメ意見の反映				総合計画原案の作成及び計画の審申	
現行の総合計画の計画期間変更について				【変更前】～令和2年度まで												【変更後】～令和3年度まで(延期理由)新型コロナウイルス感染症の流行に伴う会議等の中止の影響のため											

2. 次期総合計画の位置づけ

- 区の自転車関係の最上位計画として、今後10年間の方針を位置付ける【自転車等総合計画】を策定したうえで、計画期間の前期後期の各5年間の【アクションプラン】により、現実に即した事業展開を推進します。



3. 自転車等総合計画【楽しむ】の前期アクションプランのイメージ



4. 「楽しむ」に関するアクションプラン（仮）での具体的な取り組み

枠組み		具体的なアクションプラン
楽しむ ～自転車のある暮らしを楽しむ～ 日常の暮らしや、日々の健康づくり、余暇での観光などあらゆる場面を想定して、自転車のある暮らしを楽しめる環境をつくる。	楽しむ① 活用するためのきっかけづくり	楽しむ 1-1 自転車を活用した【暮らし】の推進 1-1-1 大田区での暮らしを楽しむための自転車活用の推進 1-1-2 自家用車利用者等への暮らしでの環境意識の向上
		楽しむ 1-2 自転車を活用した【健康】づくりの推進 1-2-1 はねびん健康ポイントアプリと連携した自転車健康づくりの推進 1-2-2 スポーツ施設、イベントと連携した自転車活用の推進
		楽しむ 1-3 自転車を活用した【観光】の推進 1-3-1 自分たちのまちを知り、気軽に楽しむ「散走」事業の実施 1-3-2 自転車関連イベントの開催のしくみづくり
	楽しむ② 自転車活用を根付かせるための支援	楽しむ 2-1 【暮らし】での活用支援 2-1-1 新たな日常での自転車活用に関する周知啓発（メリット、乗り方等）
		楽しむ 2-2 【健康】での活用支援 2-2-1 企業、組織等での自転車活用しやすい環境づくりの支援
		楽しむ 2-3 【観光】での活用支援 2-3-1 ちょっとした余暇時間を楽しめる自転車観光の促進支援
	楽しむ③ 活用を支えるハード面での環境づくり	楽しむ 3-1 サイクリング環境の向上 3-1-1 多摩川・臨海部のサイクリング環境の向上
		楽しむ 3-2 サイクルベースを核とした受け入れ環境の充実 3-2-1 サイクルベースの設置推進
		楽しむ 3-3 シェアサイクルの推進 3-3-1 シェアサイクルの活用検討

例えば…

- 「自転車を楽しく使う」ために知りたい情報を提供する
- スポーツ・健康イベントと連携し自転車活用のきっかけをつくる
- まちの魅力が見つかる「散走」事業を展開する
- 自転車活用等をしやすい企業の環境づくりを支援する
- …など

5. 先行施策の実施状況

- 自転車活用推進計画の策定に先行して、本年度においては、以下の自転車活用に関する施策を推進しています。

① 自転車を使った健康への取組 ～健康支援アプリ「はねびん健康ポイント」との連携

取組① 自転車活用メリットの情報提供及びアプリ登録者アンケートの実施

- 自転車活用メリット、安全利用に関する情報を作成し、インターネット等で公開
- アプリ登録者へのメールを通じて、7月に情報提供に合わせてアンケート調査を実施
→「自転車を使ったスタンプスポットめぐり」は**全体の34%が「興味がある」と回答**

取組② 自転車関連イベントの実施 ～自転車を使ったスタンプスポット巡り

- 多摩川河川敷に6か所スタンプスポットを新設。
- スタンプを集めた方に「自転車盗難防止啓発用品」を渡す取り組みを開始。
→スタンプラリー参加の商品配布数は、**9月から12月で182個**。

7月実施のアンケートを受けて、9月に新たなスタンプスポットを設置。

自転車の盗難防止の意識を高めるため自転車のカギを提供。

② 散走を通じた観光マップづくり ～地域が参加する「観光×自転車」の新たな施策

取組① 関係者によるワーキングの開催（令和2年10月30日）

- 「散走」を行なうにあたっての目標や考え方等の勉強会として、ワークショップ形式で実際に散走ルートを検討。
- 池上のまちづくり協議会、池上のデザイン会社、池上の自転車店などにも協力をいただき実施。

取組② 池上散走（仮）の実施（令和2年11月12日）

- コミュニティサイクルを活用した「池上散走」を実施。
- ワーキングで作成した2つのルート、2グループに分かれて約2時間の散走を実施。
- 最後に「散走による気づきの報告会」を行い、今後の散走結果のまとめ方（マップイメージ等）を検討。

参加者からの主な意見

- マップは安全な乗り方や楽しみ方も伝えられるといい
- 魅力を発見する視点が大事である
- 電動アシストならではの楽しみがわかった
- …など

③ スポーツ施設・イベントとの連携について

取組① スポーツイベント、高齢者イベント等での施設間自転車利用の推進

- 令和2年10月11日に開催した「区民スポーツまつり」に合わせて【会場間の自転車消費カロリー】を示したパネルを展示。

取組② スポーツイベントでのアンケートの実施

- 上記イベントに合わせて来場者アンケートを実施。
- 来場手段、日常や余暇での自転車の使い方等を調査。

イベント会場までの交通手段を聞いたところ、約6割が自転車を利用。

④ 区民・企業とともに取り組む自転車活用PR

取組① 自転車メリットに関する周知チラシの作成

- チラシ「楽しい自転車暮らし、はじめてみませんか？」を作成。
- 12月上旬に、区の健康経営企業表彰の対象に配布。
- 現在、配布対象の各社からの意見を募集中。

表面は、カラダとココロの健康効果と、健康的な乗り方のコツを、裏面は、自転車利用時に守るべき3箇条を記載。

6. 第2回委員会の主な意見

- 令和2年12月に開催した第2回活用推進委員会での報告及び議事での意見、質問等を以下に整理します。
- これらの意見を踏まえ、自転車等総合計画及びアクションプランの作成を進めます。

主な意見	
1	<ul style="list-style-type: none"> 「はしる」「とめる」「まもる」施策について、区民が参加しやすい合言葉があると良い 「自助」「共助」「公助」などのスローガンがあると良い
2	<ul style="list-style-type: none"> 区民に一番近い「自転車」の計画として、公助につながる部分があるため検討してほしい
3	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までの「つかう」が、「楽しむ」と変更されており、より分かりやすくなった 危険な場所等のマップ、乗り方のコツ等の情報提供は積極的に発信してほしい 大田区は各施策が横断的に進められているため、「楽しむ」でも横断的に進めてほしい
4	<ul style="list-style-type: none"> 計画評価の目標設定に関して、アウトカム指標、アウトプット指標が混在している 自転車活用が根付いたかの評価に関しては、アウトカム指標にした方がよい
5	<ul style="list-style-type: none"> 何が達成できればこの計画が成功したか、と考えると、楽しんだ結果、観光、健康、環境などに貢献したことが評価されることが重要となる 「楽しむ」だけでなく、「まもる」「とめる」「はしる」も含めて評価の仕方の検討が必要
6	<ul style="list-style-type: none"> 散走ワークショップを行なったが、色々な発見があり、体験を増やしていくことが必要 評価をするならば、単に開催回数ではなく、参加者数や他都市での散走アンバサダーのような人の数等を採用してほしい